

初の子ども司書に児童 15 人を認定

12月10日、『子ども司書養成講座』閉講式が市立図書館で行われました。12回の講座を通し、司書学を習得した15人の児童に認定証を授与。学校や地域、家庭で、人と本との結びつきを手助けするリーダーとして活躍が期待されます。



インフルエンザなどの予防に役立てて

11月30日、小林市茶研究会が小中学校にうがい用のお茶を贈りました。上別府洋哉会長は「お茶を使ったうがいを通してインフルエンザ予防の習慣や、小さい頃からお茶を口にする機会になれば」と話していました。



年末年始のパトロール始まる

12月1日、特別警戒取締隊「ひなもり隊」の発隊式が小林警察署で行われました。大野俊朗署長のあいさつ後、パトカーが一斉に出発。大野署長は「楽しい年末が過ごせるように引き締めて警戒に取り組みたい」と話していました。



心と技を磨く。少林寺流空手道競技

12月11日、小林市武道大会少林寺流空手道競技が細野小体育館で行われました。幼年から高校・一般の部の試合には、140人が参加。指導者による各演舞の後、型、組手の部で、日々鍛錬した技を競いました。



市内の少年剣士が心・技・体を競う

12月11日、東方地区体育館で小林市武道大会剣道競技が開催されました。市内の小中学生6チーム40人が参加。選手は、大きな声で打ち込むなど、日頃の練習の成果を発揮していました。



受け取った肥後市長は「当初予算に反映させたい。来年度も市民目線で評価してほしい」とあいさつしました。

事務事業の見直しに役立てて 行政評価外部評価委員会が報告書提出

12月14日、行政評価外部評価委員会が外部評価結果の報告書を肥後市長に提出しました。同委員会はこれまで10事業の内容を聞き取り、事業を評価。入谷貴夫委員長は「深い議論ができた。この評価がどのように新年度予算や事業内容の見直しに反映されたか報告してほしい」と話していました。



報告書を提出する小峰会長と西山孝明副会長。市長は「議会の特別委員会で出される意見も含め、この報告を反映させたい」とあいさつ。

新庁舎の在り方などを提言 新庁舎建設市民懇話会が報告書提出

12月15日、新庁舎建設市民懇話会が報告書を肥後市長に提出しました。同会はこれまで新庁舎建設基本構想案や庁舎の在り方などについて協議。小峰實義会長は「この報告書を庁舎建設の検討に反映してほしい。また今後も市民に対して丁寧な説明をお願いしたい」と話していました。

モデル校三松小中・須木小中が 2年間の取り組みを公開

11月24日と25日、小・中一貫教育推進モデル校研究発表会が、三松小・中学校と須木小・中学校でありました。市内外の小中学校教諭やPTA、教育委員会など400名が出席。佐藤勝美教育長は「他校のモデルとなるような実践の紹介が数多くあった。小中学校共通の目標に向け、更に尽力してほしい」と謝辞を述べました。



両地区では、道徳や国語、算数、社会、生活単元学習など16の授業が公開され、児童生徒の心に響く授業の進め方等が紹介されました。

3年間の集大成を披露 西高調理科3年生が成果発表

12月7日、小林西高調理科3年生による学習成果発表会と試食会が、同校体育館でありました。生徒代表の山田匠郎さんが「3年間の集大成を心ゆくまで堪能ください」とあいさつ。会場には71作品が並び、各テーブルで生徒が保護者などに作品の説明をしながら料理を振る舞っていました。



1月28日と29日、調理科による期間限定のランチ「高校生の三ツ星レストラン」がすきむらんどレストランでオープンします。



小林高校は旧制小林中として大正10年に開校。昭和23年に県立小林高校となり、これまで約3万人の卒業生を送り出しています。

さらなる飛躍を誓う 小林高校が創立90周年

11月27日、文化会館で創立90周年記念式典が開催されました。在校生や卒業生など約1,000人が参加。池内範武校長は「伝統の重みを再認識し、未来に向かって力強く一步を進め、本校ならではの教育に精進する」と式辞を述べました。式典後は、卒業生でクラシックギタリストの大萩康司さんのコンサートが開かれました。



松本山雅FCは、今年2月に小林市で合宿を開催。この試合で4位以内が確定し、来シーズンのJリーグ2部への参入を決めました。

日本フットボールリーグ JFLの迫力あるプレーに大歓声 ホンダロックSCが奮戦

12月4日、JFLのホンダロックSC対松本山雅FC（長野県）の試合が総合運動公園陸上競技場で開催されました。激しい攻防を展開する両チームに約1,000人の観客から大歓声。少ないチャンスから2点を挙げた松本山雅が接戦を制し、遠方から駆けつけたサポーターの歓声に応えていました。